



慶應義塾大学ビジネス・スクール

プレゼンション・システム・サイエンス株式会社 2007

5

バイオベンチャー企業のプレゼンション・システム・サイエンス株式会社（以下PSS）は、独自の Magtration® Technology を活用し、遺伝子研究の基礎工程である核酸（DNA／RNA）抽出作業の時間短縮と効率性を飛躍的に向上させることに成功した。

10

PSS の DNA 自動抽出装置は、世界各国の大手医薬品メーカー、大学、研究機関、検査センターなどで数多く採用されている。その装置は海外でも高い評価を得て、PSS の推定によれば世界市場の 50%程度のシェアを確保している。また PSS は、欧洲に強力な販売網を持つロシュ（Roche、スイス）やキアゲン（Qiagen、オランダ）のみならず、アメリカ企業のインビトロジェン（Invitrogen）、ベックマン・コールター（Beckman Coulter）、ナノストリング・テクノロジーズ（NanoString Technologies）と OEM 契約による販売提携を進めている。PSS は、海外の大手メーカーとアライアンスを結んでいる数少ない日本のバイオベンチャー企業である。

15

さらに、PSS の技術は、エイズ、肝炎（B型、C型）のウイルスの有無を調べる NAT 検査（遺伝子増幅検査）でも活用・製品化されて日本赤十字に納入されている。

20

企業としても注目が高く、2001 年 2 月NASDAQ・ジャパン（現ヘラクレス）に上場した。バイオベンチャー企業の中で最も早く上場を果たした企業の一つであった。その後、売上を順調に伸ばし、2007 年 6 月期の売上高約 37 億円は、上場バイオベンチャー企業 14 社の中で 2 位につけている（2007 年 6 月時点）。さらに、ニュースウィーク誌の「世界が注目する日本の中企

25

本ケースは、クラス討議のための資料としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。本ケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科中村研究室（藤原尚也、三木隆、山下信哉、中村洋）が公表資料、関係者へのインタビュー等をもとに作成し、2008 年に改訂したものである。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉本町 4-1-1、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> 慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30